


令和4年度 基本評価調書①		所管部局	水産 林務部	所管課	水産振興課、漁業管理課		
施策名	海獣類の個体数に配慮した漁業被害対策の推進			施策 コード	0702		
政策体系 (中項目)	豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承			政策体系 コード	1 (3) B		
関連重点 戦略計画等	知事公約 創生総合戦略					事務事業数	4
SDGs				総合判定	遅れている		
予算額 (千円)	R 4	51	R 3	51	R 2	51	

施策目標	トドやオットセイ等による漁業被害対策を総合的に推進し、被害の低減・防止を図る。 外来魚の駆除及び拡散防止を図る。					
現状と 課題	海獣類による深刻な漁業被害が発生しており、被害防止対策を総合的に推進する必要がある。 道内に生息する外来魚は魚食性が強く、在来種の資源量や生態系に与える影響が懸念されることから、拡散防止対策を進める必要がある。					
前年度 二次評価 意見	-		対応状況 (R4. 3時点)	-		

	今年度の取組	実績と成果
主な取組	トド採捕数の管理を行う。 外来魚の駆除及び拡散防止に向け、地元関係者による 駆除・調査・拡散防止等の指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業者ハンター育成支援の実施 (R1:2名、R2:2名、R3:0名) ○国費 (有害生物漁業被害防止総合対策、鳥獣被害防止総合対策) を活用した駆除や被害を軽減する強化網導入等の被害防止対策を実施。(R1:36団体、R2:37団体、R3:37団体) ○振興局海獣被害防止対策連絡会議 (設置8振興局) 等による情報の共有化を実施。(情報提供: R1:1回、R2:1回、R3:1回) ○渡島総合振興局管内の河川で外来魚生息調査を実施。(実施済: 6月、今後: 7月~)

連携状況	北海道アザラシ管理計画検討会を通じ、生息数の調査結果の情報共有や被害防止対策の検討など関係部局 (環境生活部等) と連携した取組を行っている。海獣類の出現に伴う被害や防止対策の情報を地域全体で共有することによって、被害対策 (採捕や休漁等による被害回避) が効率的に進められているなど、海獣被害対策や外来魚対策について、地域関係者と連携した取組の効果が確認できる。(北海道アザラシ管理計画検討会: (R1)R2. 2. 6 25名参加、(R2)R3. 3. 8書面開催、(R3)R3. 8. 11web開催32名参加、R4. 3. 25web開催27名参加)
緊急性 優先性	海獣被害対策や外来魚対策について、依然として深刻な漁業被害となっていることから被害軽減が強く望まれており、地域関係者と連携し取り組んでいるほか、R3年度のトドによる漁業被害額は、全道で約7億5千万円と未だに大きな被害となっていることから、トド駆除など被害軽減対策による支援の拡充・強化及び被害に対する補償など新たな支援制度の創設について、国に対して必要な要望を実施している。

令和4年度 基本評価調書②	施策名	海獣類の個体数に配慮した漁業被害対策の推進	施策コード	0702
----------------------	-----	-----------------------	-------	------

〈成果指標の達成状況〉 ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載

指標名①	増加	万円	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
漁業生産額（漁業就業者1人当たり）（暦年）		目標値	1,143	1,166	1,190	1,324	72.8%	D
		実績値	1,122	953	866	-		

設定理由 北海道総合計画、北海道水産業・漁村振興推進計画に基づき、海獣等による漁業被害対策を推進することにより得られる施策の効果を把握する指標として設定。

分析（主な取組と成果）

海獣による被害対策を推進しているものの、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により魚価安となったことなどから、「漁業生産額（漁業就業者1人あたり）」の目標値を達成できなかった。

指標名②			R2年度	R3年度	R4年度	最終目標()	達成率	指標判定
		目標値					-	-
		実績値						

設定理由

分析（主な取組と成果）

指標名③			R2年度	R3年度	R4年度	最終目標()	達成率	指標判定
		目標値					-	-
		実績値						

設定理由

分析（主な取組と成果）

【総合判定】

連携状況	○	緊急性優先性	○	指標判定	D	総合判定	遅れている
------	---	--------	---	------	---	------	-------

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	漁業生産額の低迷は、トドの来遊による影響も一つの要因として考えられることから、引き続き、トド来遊実態の把握に務め、絶滅回避との両立を目指しつつ、採捕枠に基づく確実な採捕の実施を図り、漁業被害の軽減に取り組む。
	②	道内に生息する外来魚は魚食性が強く、在来種の資源量や生態系に与える影響が懸念されることから、外来魚の駆除及び拡散防止に向け、地元関係者による駆除・調査・拡散防止等の指導を行う。
	③	

令和4年度 基本評価調書③	施策名	海獣類の個体数に配慮した漁業被害対策の推進	施策コード	0702
---------------	-----	-----------------------	-------	------

<二次政策評価>

R4年度 二次政策 評価	<p>【施策目標の達成状況】</p> <p>総合計画に掲げる、人と自然・生き物が共生する社会づくりのため、海獣類による漁業被害防止対策を総合的に推進することが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。</p>
--------------------	---

